

第1回那珂川町学校規模適正化検討委員会議事録

令和7年7月25日（金）

14:00～15:30

馬頭総合福祉センター

1 開会

2 あいさつ

那珂川町教育委員会教育長 吉成 伸也

3 委嘱状交付

- ・ 福田委員に交付する。
- ・ 他の委員には机上に交付する。

4 自己紹介

- ・ 名簿順に自己紹介を行う。

5 委員長及び副委員長選出及び委員長あいさつ

- ・ 事務局案により、委員長に池田委員、副委員長に高野委員を決定する。

6 諮問事項説明

- ・ 教育長より池田委員長へ諮問書【資料1】を提出する。

7 説明・協議

(1) 那珂川町学校規模適正化検討委員会設置要綱について

- ・ 資料2に基づき、事務局より説明する。

(2) 那珂川町の現状と課題等について

- ・ 資料3に基づき、事務局より説明する。

【委員からの意見・質問等】

- ・ 説明を聞いているとマイナスの意見ばかり見える。小規模校で、いい点はないのか。

（事務局）資料P8に記載のとおり、少人数を生かした教育活動ができること、個別指導の充実による学習内容の定着が図れること、地域との密接なつながりを活かした校外活動等の充実が図れることなどが考えられる。

- ・ 小規模校の強みとして、児童生徒一人一人に対して先生が目が行き届く。
- ・ 馬頭東小の保護者から、地域の方と一緒に3日間、サマースクールを行っていて、竹細工や流しそうめんなどを行っていることを聞いた。6年生と1年生が一緒に活動をしていて、つながりの密さを感じる。
- ・ 平成7年頃、いじめなどがあったが、子どもが多く、先生の話聞きもらえないことがあった。少子化だからこそ、先生が目が届き、子どものSOSサインを把握してもらえる。
- ・ 人数が少ないと、人間関係が固定化されてしまう。高学年になると、性格の合う・合わないが出てくる。
- ・ 現在、保護者の送迎で、子どもを中学校へ通学させている。朝の送り出しの時間が異なるため、時間の調整が難しい。ひとり親や祖父母の協力が得られない家庭あると思うので、一緒に検討していきたい。少人数学級では、先生の目の届いた教育を受けていると思う。

- ・地域のつながりやコミュニティの観点から、学校は存続してほしいと思う。ただ、子どものことを考えると、切磋琢磨やお互いに学びあいや高め合いという点では、適正規模の学校がいいのではないかな。
- ・少人数教育や異年齢交流が活発に行われるということは、子どもの発達でもとても大切だと思う。しかし、少人数であると、トラブルが発生した際、クラス替えを行うことができないので、人間関係を改善することができないこと。切磋琢磨や競争力も考慮しないといけない。那珂川町の子供にとってどのような学校規模が適切かを今後、検討していきたい。
- ・小規模校は、責任感が高まったり、地域のつながりが強くなったりするなどメリットがある。しかし、人間関係の固定化や集団生活ができないなどのデメリットもある。人数がいれば、様々な考え方に触れることができる。総合的に考えて、少人数は厳しい部分もあると思う。
1人1人が社会的に自立できる方向に持っていければいいと思う。
那珂川町で行っているハッピースローププランは、素晴らしい成果を上げていると思う。
(事務局) ハッピースローププランとは、子ども園から小・中学校12年間の教育を町として様々な形で支援を行っている。具体的には、こ小連携・特別支援教育・外国語教育・体力向上部会・学力向上部会など様々な部会を立ち上げ、研修会を通して、子ども園から中学校の先生方が情報を共有できる機会を設けている。
- ・移住者の割合は、町でも把握しているのか。
(事務局) 小川地区には、子育て支援住宅があり、移住者の数は微増している。詳細の数や割合については把握していない。
- ・那珂川町と同じような地域の先進事例を提示してほしい。
- ・塩谷町や鹿沼市でも義務教育学校を進めている。参考にしてもいいと思う。
- ・馬頭東小学校では、地域の方と一緒にサマースクールを行っているが、他の学校でも行っているか。
- ・馬頭小学校もPTCA活動を行っている。授業に地域の方と一緒に授業をしたり、奉仕活動も一緒に行ったりしている。
- ・以前、わかあゆ認定子ども園で、まほろば太鼓を園児と一緒にたたいた。園児はとても喜んでくれた。まほろば太鼓も打ち手不足などの問題があるが、町の活性化のために様々な場所で行いたい。
- ・小中学校一貫校の事例も教えてほしい。小中学校一貫校であれば、スクールバスの問題も解決できるのではないかな。

8 事務連絡

- ・事務局より次回の連絡を行う。

9 閉会